

## 小松島市立学校再編実施計画（案）に関するパブリックコメント実施結果

1	意見募集案件	小松島市立学校再編実施計画（案）に関するパブリックコメント
2	意見募集期間	令和2年2月5日（水）～ 同月25日（火）
3	閲覧場所	教育委員会教育政策課学校再編準備室、市ホームページ
4	意見提出者数	17人

・提出方法の内訳

提出方法	人数	備考
持参	2人	
郵送	2人	2人の連名
ファクシミリ	7人	
電子メール	6人	
合計	17人	

5	意見提出件数	54件
---	--------	-----

・意見の内訳

分類	件数
通学・通学路等	16件
教育内容	9件
施設整備	7件
学校生活	5件
アンケート	5件
学校規模	5件
防災	5件
校区	1件
まちづくり	1件
合計	54件

6	意見等の概要と教育委員会の見解	下記のとおり（「意見等の概要」欄の内容は、いただいたご意見を原文のまま掲載しています。）
---	-----------------	----------------------------------------------

No.	件	意見等の概要	教育委員会の見解	分類
1	1	小松島市全体を見直し、出生数やまちづくりを考えた時、4校案がバランスがとれていると感じる。そして、何よりも、情報化、グローバル化が進む中で、今の子供たちは生きていく力強さがあるのである。再編をすることにより、1中学校2小学校で連携を強めることには期待感がもてる。	これから子どもたちが変化の激しい社会を生き抜いていくための「生きる力」を育てていくことが必要と考えています。再編によって、「1中学校2小学校」の連携が可能となり、連続した9年間を見通した教育活動を行うことで、資質や能力を子どもたちに育てていきたいと考えています。	教育内容
	2	また、児安小学校は、市の徳島よりに位置してはいるが、小松島市の勢いを示す大事な場所である。中心部だけに位置する小学校だけでは、たくさんの弊害が生まれてくる。ましてや児安小学校に通う子供達が、バイパスをまたいでの通学等、小学校としては、とう底、受け入れられないことができない。是非、現行の四校案で成案としていただきたいと、市民の多くの声を代表させてもらう。	通学については、学校再編準備委員会における専門部会の中で、学校の先生やPTA、地域の方のご意見をいただきながら、子どもたちが安全に通学できるように取り組んでまいります。	通学・通学路等
2	3	現在の4校案に賛成です。老人会のメンバーや地域の多くの方が同じ意見であります。児安小学校は、小松島市全体で見た時に、高い位置にあり、距離の観点から見ても、小学生の足で歩くには、校区も広く、西原地域から歩くのは相当な距離となります。 また、新しく家を建てられたり、子どもさんが誕生してまもないようなご家庭も多く、児安小学校を残してほしいという保護者からも強い要望がたくさんあります。「安心・安全な通学」が第一であるという、大前提を強い意志	通学については、徒歩通学とバス通学の双方にそれぞれメリットとデメリットがあると考えていますが、再編後には、メリットを活かし、デメリットを最小限に止められるよう、学校再編準備委員会における専門部会の中で話し合っていきたいと考えています。	通学・通学路等

		でもっています。そのためには、通学支援が必要な児童、つまり、スクールバスを利用する児童が出来るだけ少なくなる4校案を切望いたします。		
3	4	4校案に賛成です。小学校の子どもを通わせることを考えた時、保護者が一番に考えるのは、今日も1日、安全に行って、帰ってくれることでもあります。児安小学校区に、たくさん家が建ってきており、これから子育てが始まる方も非常に多い現状があります。スクールバスの説明を地域住民説明会で聞いた時、スクールバスの台数が最も少なくなる4校案に納得させられました。	教育効果や通学の負担、費用などを総合的に検討した結果この4校案の作成に至っています。	通学・通学路等
	5	小中との連携や小小との連携も今まで以上に取りやすく、質の高い授業や、コミュニケーション能力も増すと考えられます。4校案に強く賛成します。	再編に伴い、市内の小・中学校で共通の9年間を見通した教育課程を編成することで、小学校間、小中学校間でより良い教育を行うことができ、学力の向上にもつながると考えています。現行の11小学校を4校に再編することにより、教員が合同の研修の機会を持ちやすくするなど連携をより密にとることができます。	教育内容
4	6	小学校の再編計画に賛成です。児安小学校から南小松島小学校へ通学するには、あまりにも遠い。歩いて通学できる距離でもない。バス通学の説明もあったが、バスが何台も必要となり、又低学年と高学年では、学校の終了時間が異なると思う。また、授業の途中で早退をよぎなくされた場合の対応も大変。	より通学支援者数が少ない案としてこの4校案をお示しさせていただいておりますが、それにより安定的に支援を確保することができます。通学支援の具体的な内容については、学校再編準備委員会の専門部会で検討してまいりたいと考えています。	通学・通学路等
	7	何よりも一番心配なのは、地震による津波である。 ハザードマップでも分かる様に、4校案の内、一番高いのは児安小学校である。皆さんが心配されると思う勝浦川の堤防の決壊だと思いますが、勝浦川南岸の田浦町西原地区の堤防の未整備区間の補強整備が進められる。万が一、堤防が決壊しても、高速道路の盛土があり、一気に水が押し寄せることはないと考える。非常に安全・安心な児安小学校は、残していただきたい。学校前の歩道も広く、きれいになっています。	小学校は子どもたちが一日の大半を過ごす場所であることから、地震や津波に対する安全策を講じる必要性が高いことは勿論ですが、通学における安全性も通学途中の避難施設の設置・周知や防災教育の実践などを通して高めておくことが必要と考えております。	防災
5	8	私は小学校再編計画を見てきた中で、現在の4校案が最良であると強く感じています。知人も同様の考えを持つ人が多いと感じています。 小学生本来の通学方法は徒歩であり、バスではありません。友人と自然を感じながら、生まれ育った街並みを毎日通学することこそ、地域に根ざした健全な子どもの育成が可能となるのではないのでしょうか。 安易に2校案にするのではなく、最も徒歩通学のできる児童数を多く確保できる現在の4校案を強く支持いたします。児安小学校の通学範囲は広く、北原地区から児安小学校まで、小学生の足で歩くのには大変遠く、ましてや、バイパスをこえてむこうにわたることは無理であると判断します。 更に、児安校区には、新しく家もたくさんたっており、今、乳児を育てているお母さん、お父さん方に話をする機会も多いですが、人数が減っていくとはいえ、児安小学校に通うことを強く望むご家庭が多いのが現状です。	通学については、徒歩通学とバス通学の双方にそれぞれメリットとデメリットがあると考えていますが、バス通学となっても、バスの乗降場所までの移動は徒歩による可能性もあり、その場合は、周囲の自然とふれあいながら通学することもあるかと思えます。なお、通学支援に関する内容は、学校再編準備委員会における専門部会の中で具体的な検討を行ってまいります。	通学・通学路等
	9	また、ハザードマップでも、高さが高く、人口に勢いのある児安校区の位置の小学校はどうしても残していただきたいと多くの子育て世代の方々から強い声をいただいておりますので、私も必死の思いで伝えさせていただきます。スクールバスが一番少なくてすむ現行の案で、児安の地を残してくださいませよう心からのお願いです。 どうかよろしく願いいたします。	防災のことについては、どの地域においても、地震や津波に対する安全策を検討してまいります。	防災
	10	今回、再編について出された案は小松島市全体の将来を考え抜いた上で出されたものと感じました。	教育効果や通学の負担、費用などを総合的に検討した結果この4校案の作成に至っていますが、次世代への負	施設整備

		<p>まだ時期が早いという考えや、そのまま残してほしいという考えもありますが、人口減少が進む今日の状況下で11小学校をそのまま残せば、そのための費用（老朽化した校舎の修繕や新築等）を少ない人口で負担していかなければならず、次世代の人々にも大きな負担を強いることとなります。人口減は国の大きな課題でもありますが、これから起こりうる未来を直視し、持続可能な小松島市としての教育体制を今決断しないと手遅れになるのではないのでしょうか。</p>	<p>担を抑えるために、再編後も使用可能な施設は引き続き使用することなどにより、費用面での負担軽減に向け検討していきたいと考えています。</p>	
6	11	<p>また、通学支援についてですが、他市の例では通学距離が3kmや4kmを支援対象としている場合もあり、国の基準は4kmとなっていることから考えると、案にある1.8kmの基準は適切であると思われます。ただし、その状況に応じてスクールバスだけでなく、路線バスやJR、タクシーなどを含めた通学手段の検討も必要であると思います。</p>	<p>スクールバス以外の支援の方法については、支援対象となる子どもの安全性とともに利便性も考慮しながら、学校再編準備委員会における専門部会の中で、保護者の方の意見も伺いつつ検討していくことになると考えています。</p>	通学・通学路等
	12	<p>学校施設は、「地域の核」や「避難施設」としての役割も期待をされていますが、第一議的には「教育機関」であり、学校再編はその機能を維持・向上させていくために行われるものであると認識しています。学校の施設の更新時期が迫っているとはいえ、引き続き使用可能な施設は有効活用していくことで、地域活性化につながる場合もあるかもしれません。この再編を通して、崩壊しつつある地域コミュニティを立て直すために、新小学校をコミュニティスクールにし、学校を中心とした地域と共にある学校づくり、そして町づくりができればありがたいです。</p> <p>学校再編には多くの課題や懸念が伴うのは必然であると思います。課題があるからといって案を後退させるのではなく、それらの課題については、学校の先生や地域の方、国や県の職員さんなど様々な方々と協議し、協力を得て、解消する方向へと努めてほしいと思います。</p> <p>未来は子どもたちにあります。予測不能で急速にグローバル化する社会に、たくましく挑戦していける子どもを育てていけるよう、是非再編を進めてください。</p>	<p>小松島市内の小学校はそれぞれ伝統があり、地域の中心としての役割を担っていることは十分理解しています。地域の方の協力を得ながら学校運営を行うことで、子どもたちと地域の方との交流を通じて地域の歴史や文化、魅力について学び、その経験から学んだことを地域に還元し、地域の活性化につなげるような取り組みとなるようにしていきたいと考えています。</p>	教育内容
7	13	<p>子育てを行っている立場から、現行案の4校案こそ意義を感じる。児安小学校区は端から小学校までの距離が非常に遠く広い。小松島市の中でも広いという観点から存在意義を感じる。標高も高く、津波や洪水などで浸水しにくいという利点もある。</p> <p>近年校区内の宅地化も進んでおり、ますます小学校の存在価値も上がりつつある。安全で活性化しつつある地域の小学校は重要である。</p> <p>現在多くの子育て世代の母親の意見も同様であり、声を大にして、4校案に賛成していきたい。</p>	<p>防災のことについては、どの地域においても、地震や津波に対する安全策を検討してまいりたいと考えています。小学校は子どもたちが一日の大半を過ごす場所であることから、地震や津波に対する安全策を講じる必要性が高いことは勿論ですが、通学における安全性も通学途中の避難施設の設置・周知や防災教育の実践などを通して高めておくことが必要と考えております。</p>	防災
8	14	<p>60年前に児安小学校に通学しており、楽しく遊びながら家と学校を往復した思い出をなつかしく思います。現代の子どもは自然とふれあう機会が少なく、車の移動ばかりの生活となっており、体力の低下も懸念されます。田浦、新居見地区はまだまだ多くの自然が残っており、是非、地域の子どもにも通学を通してこの豊かな自然に親しんでもらいたいと思います。</p> <p>家数も増えており、児安を安全面からも残してほしいと多くの声を聞いている。近々孫が小学校に入学する予定です。4校案を残し、できる限り多くの小学生がバスに乗ることなく通学できることを切に願います。</p> <p>4校案に大賛成している人が大勢おり、その声を代表して伝えさせてもらっています。再編は子供たちにとって</p>	<p>通学については、徒歩通学とバス通学の双方にそれぞれメリットとデメリットがあると考えていますが、バス通学となっても、バスの乗降場所までの移動は徒歩による可能性もあり、その場合は、周囲の自然とふれあいながら通学することもあるかと思えます。ただし、通学支援に関する内容は、学校再編準備委員会における専門部会の中で具体的な検討を行ってまいります。</p>	通学・通学路等

		明るい学びの場である。4校案に大賛成です。		
9	15	再編実施計画（案）に概ね賛成します。さらに以下の3点を検討いただけると、市全体の公共施設のあり方の観点からも、より良い計画となると思います。 1）南小松島小学校敷地の新校舎や校庭の規模の適正化 再編実施時（ピーク）に合わせて新校舎を建設すると規模が過大となります。代替案として、耐用年数に余裕のある北小松島小の既存校舎も一定期間併用し、できる限り最適な規模での新校舎とすることを提案します。	南小松島小学校敷地に建設する学校の教室数については、再編後も現在と大きく変わりません。ただし、学校運営を行う中で、あるいは事情の変化などによりさらにスペースが必要となる場合もあることから、その場合にも、子どもにとってより良い教育環境を準備できるよう取り組んでまいりたいと考えています。 ご提案いただいた内容については、実施計画（案）の計画の中には含まれておりません。	施設整備
	16	また、南小松島小敷地が児童数の割に手狭なことから、隣接する南小松島幼稚園を（築年数が新しい）小松島小へ「こども園」に変更し移転させることで、より広い校庭や通学バス乗り場等を確保することを提案します。	スペースの確保の仕方については、ご指摘にあるような考え方もあるかと思いますが、学校敷地内のスクールバスの乗入れの仕方や校舎の建設方法などを工夫することで対応していきたいと考えています。	施設整備
	17	2）児安小学校敷地、和田島小学校 2030年時点でも1学年1クラスの規模となり、その後も減少することが予測されていることから、校舎は新設せず、耐震化が済んでいる既存校舎を設備改修等を行いながら活用することを提案します。その後、1学年1クラスが維持できなくなる時期に南小松島小、新開小へ再編してはどうでしょうか。	学校施設等については、実施計画（案）にもあるように、改修が困難である場合に新たに建設することにしております。現時点では、二段階にわたる再編は考えていません。	施設整備
	18	3）再編実施計画に合わせた安全な通学路の検討 例えば、北部校区の南小松島小敷地への通学は日の峰通り（県道芝生-日の峰線）が主要な通学路になると思われます。そこで都市計画部局と連携し、日の峰通りから南小松島小敷地に直結する道路の設置、通学路の安全確保のための歩道拡幅やガードレール等の設置、集団登下校の集合場所や休憩場所となるポケットパークの設置等、必要な措置を再編実施計画に合わせて計画・事業化することを提案します。	現時点でも「通学路安全推進協議会」において、都市整備部門を担当する市長部局とともに、国や県、警察なども協議しながら通学路の安全確保に努めていますが、新しくできる学校周辺の通学路については、開校前に学校再編準備委員会の専門部会を立ち上げ、具体的な検討を行っていききたいと考えています。	通学・通学路等
10	19	・1学年2学級維持を目標に始まった再編であるのに、統合の仕方がバランスが悪く最初から2学級できない学校があるのはおかしいと思う。	統合の仕方については、当初、「1学年2学級」を確保できる2校案での再編を考えていましたが、その場合、通学支援を要する児童数が半数以上になる学校ができることから、児童の通学にかかる負担軽減を主眼とする4校案の作成に至りました。	学校規模
	20	・バス支援者が一番少ない分け方と説明を受けたが、経済的理由を優先して再編するのではなく、教育的配慮を一番にするべきだと思う。 ・同じ市内にしながら、この再編の仕方では教育の不平等が生じる。	通学支援の観点からだけでなく、教育効果や費用などを総合的に検討した結果、この4校案の作成に至っています。	通学・通学路等
	21	・南小松島小学校近辺は、高校も幼稚園も近くにあり、今も雨天等の時に道路の混雑で支障がでていと聞いている。住民も困っている。再編案ではここに1番人数が多い学校となるようだが、災害時や雨天時の混乱が懸念される。	再編後の学校敷地内にスクールバスの乗り入れができるスペースを設けている他市の事例なども参考にしながら、通学時の交通渋滞が少しでも緩和できるよう検討をしていまいます。	通学・通学路等
	22	・1学年2学級あったほうが切磋琢磨できて良いと思うが、小学校時は人数が多くなりすぎても、教育的観点からして問題が多くなると思う。	人数が多いことへのご指摘について、生徒指導上の課題は学校規模の大小に関わらず起こり得るものと考えられます。小学校や小中学校の教員間で共通理解をしながら、課題の解決に向けて、子どもたちの指導に当たりたいと考えています。	学校規模
	23	・小中連携は今のままでも十分だと思うし、再編する理由としては理解ができない。	中学校進学時に感じる不安の解消・軽減や学力の向上等を図るために、小・中学校間での連携はさらに必要と考えています。現行の11小学校を4校に再編することにより、教員が合同の研修の機会を持ちやすくなるなど連携をより密にとることができます。	教育内容
	24	・アンケート結果は年配の方からの回答が多かったようだが、一番関係する子育て世代は忙しくアンケート返却	調査票とともに本市の学校再編について整理した資料（市広報令和元年12月号への折込資料とほぼ同じ内容）	アンケート

		していない人が多いと聞いた。また、アンケートを回答した人も再編には賛成だが、今提案されている再編方法（4校の統合の仕方）は分かっていない人も多くいるように感じる。	もお送りさせていただいています。	
	25	・アンケートの回収率が悪い中で、賛成多数として進めるのは違うと思う。	アンケートの回収率については、アンケート調査会社からは、907人の回答で信頼度が95%（誤差±3.2）である旨の報告をいただいております。統計学上、仮に同様の調査を100回行えばそのうち95回は同程度の結果が導き出されると考えられ、精度が高い結果とされています。 このアンケート結果やパブリックコメントなどを精査し、総合的に考えてまいりたいと思います。	アンケート
	26	・子育て世代が小松島にすみたくなるような街づくりの一助になるような再編方法に考え直してもらいたい。	再編により、魅力のある小松島の教育を行うことで、子育て世代が住みたいと思えるような学校再編にしていきたいと考えています。	まちづくり
11	27	いつも子供たちの安全・教育のためにご尽力くださりありがとうございます。卒業生の親として意見を述べさせていただきます。通学支援を考えておられるなら、市内2校（北部1校南部1校）で新校舎で建設をお願いしたいです。理由としては、①旧校舎は未だ和式トイレだったりバリアフリーやエレベーターがない校舎が多い	既存校舎を使用する場合でも、様々な子どもの状況に配慮した設備となるよう改修等を行ってまいりたいと考えています。	施設整備
	28	②既存の学校にバスのロータリーの土地が確保できるとは思えないため交通渋滞や危険因子が素人考えでも十分に予測される	通学時における交通渋滞や危険な状況については、学校再編準備委員会の専門部会において市長部局やPTA、地域の方も委員になっていただき、具体的に対応策を検討してまいりたいと考えています。	通学・通学路等
	29	③廃校になる学校の地域住民の心の負担の格差が和らぐ ④思い入れのある自校から転出しなくてはいけない子供たちに希望を与える学校生活をおくってもらうために最低限、前の学校以上の環境がないとおかしいから等です。 アンケート回答の中の意見で小中一貫校の提案内容がありましたが、小松島市の教育を考えるならこのくらいの思い切った内容で進めて、小松島の教育はここまで小松島の子供たちのことを考えているんだぞ、すばらしいだろ！というところを見せてください。資金の面でご苦労があるのは理解できますが、私には今の合併案は子供たちが置き去りにされている内容に思えて心が痛みます。乗り物酔いをする子供を持つ親よりの提案です。今一度再考をお願い致します。	子どもたちの資質や能力を伸ばし「生きる力」を育み、希望を持てるような新たな教育環境の整備のために、学校再編準備委員会の専門部会の意見をいただきながら取り組んでまいりたいと考えています。	教育内容
	30	小学校再編自体には賛成していますが、現4校案に納得できません。 当初は2学級を目指すと言われていたにもかかわらず、1学級の学校での再編が2校もあることに納得できません。徒歩通学支援数を減らすため、との理由を説明していたが、支援者数は児童低下とともに減少することになると思うので、時系列のシミュレーションも必要だと思います。	2030年度以降の児童数のシミュレーションも行っておりますが、学校再編の目途としている2030年度時点での児童数をもとに教育効果や通学の負担、費用などを総合的に検討した結果この4校案の作成に至っています。	学校規模
12	31	また、12学級以上の学校再編でなければ国からの支援も1/3程度で、今回の目当てとされているであろう国庫からの充当される支援金1/2は4校中2校がえられないこととなります。コスト算出資料を見ると児安/和田島を新校再編すると1校約20億かかるようなので、 20*1/6*2=6億6千666万の負担が市民に強いられます。通学支援にかかるバスの費用に充てられるのではないのでしょうか。教育委員会なのだから、支出などの面については市役所の担当課と常時組んで、道の拡幅計画も含めて計画を練るべきだったと思います。付け焼き刃の学校再編は魅力的ではないと思います。	国庫補助については、学級数に関係なく、複数校を統合する場合の補助率は1/2となり、統合しない場合は1/3となります。学校再編に伴う建設費用は、あくまでも一般的な単価ですべて新築した場合の費用を示していますが、実施計画（案）にもお示しのとおり、既存校舎の有効活用を念頭に置くことで、費用負担を実現できるよう努めてまいりたいと考えています。	施設整備
	32	有識者会議で小松島のどこに住んでいても同じ教育環	再編後の南小松島小学校については、学校全体で19学	学校規模

	<p>境を受けられるように、という内容がありましたが、同感です。1学校だけ人口規模に合わないマンモス校が出現していてバランスがとれていません。小松島市程度の人口規模にふさわしくありません。</p> <p>住まう場所で通学時間の長短が出てしまうのは仕方ないと思いますが、登校後の環境は人数をベースした規模をできるだけ平等にすべきだとおもいます。市民の税金が投じられる再編事業には児童一人当たり均等に分散されるべきだと思います。</p>	<p>級になることを見込んでいます。国が速やかな解消を促す過大規模校（31学級を超える学校）には該当しませんが、6学級の学校との規模のバランスは、小学校間での連携を図る中で児童間や教員間の交流や共通の教材を使用することなどにより保っていきたいと考えています。</p>		
12	33	<p>「学校再編に係る地域住民説明会」資料のI-⑤に「いじめの認知件数、不登校児童数、暴力行為の加害児童生徒数等の増加」→「解消」ありますが、そうは思えません。人数が多くなることで、いじめ・暴力件数は増えると思います。今やモンスターペアレンツを徳島でも見かけます。少人数校でも教師が生徒や親に強く言えず、他の生徒に迷惑がかかっている事例があります。これがマンモス校になると、教師陣の目に見えない問題事例は確実に増えるし、保護者への関わりが期待通りにできるとは思えません。また、このあたりの説明はほとんど深くされておらず、疑問が残ったままです。ここ数年東京を中心に統廃合が進んでいるようで、小学校における2019年度調べでは前年よりいじめや暴力件数は3割増となっているそうです。統廃合により児童数が増えた影響は否めないと専門家は言っています。</p>	<p>いじめや暴力については、学校の規模にかかわらずどの学校でも起こり得るということを踏まえ、日常よりすべての教職員で理解を深めておく必要があります。学校の規模が大きくなることで教職員数は増えることとなり早期の発見につながると考えられます。小学校間、小中学校間で合同の研修の機会を持つなどし、すべての子どもが安心して充実した学校生活を送れるようにしていきたいと思っています。</p>	学校生活
	34	<p>徒歩通学が長距離化して疲れやすくなり、ストレスによるいじめ・暴力が増えたり、学力の低下を招くのではないのでしょうか。</p>	<p>文部科学省新教育システム開発プログラム「通学制度に係る児童生徒の心身の負担に関する調査研究」(平成20年)によれば、小学校で4km以内の通学距離の範囲内においては、気象等に関する考慮要素が比較的少ない場合、ストレスが大幅に増加することはないという結果が報告されています。</p>	学校生活
	35	<p>今回の再編に伴って考えている教育事業では注目を集める素晴らしい内容になると小野寺氏がおっしゃっていましたが、再編新校が決められなくても、再編にともなう目指す教育内容は説明できるのではないのでしょうか。今後の具体的な説明もなく再編を言われても、再編する目的の意義が理解できません。再編しないと実現できないのなら、資料など提示してほしいです。</p>	<p>他市の例にはなりますが、小・中学校で合同で行事を行ったり、相互に授業に乗り入れをしたり、小中の教員による合同の研修会を行うなどして連携をとりながら、教育活動に取り組んでいる例があります。教育課程については、学校再編準備委員会の専門部会の中で具体的に検討していきたいと考えています。</p>	教育内容
	36	<p>徳島県の学力は年々低下しています。切磋琢磨されることで学力が向上するのでしょうか。そうになると、再編新校の予定の4校の内、和田島と児安は他校に比べて切磋琢磨される度合いが少ないので学力は現状程度になるのでしょうか。そうではないのであれば、今の小規模校が複数(複数といっても11校で徳島市の約1/3)あっても連携をとって学力を向上する努力をすべきではないのでしょうか。</p>	<p>市内で共通の9年間を見通した教育課程を編成することにより、小学校間、小・中学校間でより良い教育を行うことができ、学力の向上にもつながると考えています。現行の11小学校を4校に再編することにより、教員が合同の研修の機会を持ちやすくなるなど連携をより密にとることができます。</p>	教育内容
	37	<p>通学支援の域は低学年の内は柔軟に対応して欲しい。</p>	<p>通学支援については、学校再編準備委員会とその専門部会において具体的に検討を行っていくこととなります。</p>	通学・通学路等
	38	<p>どの世代も防災・災害に対する意識が高いと思います。60代以上の方は過去の震災などは風化してしまっていて、自分たちの目の前の生活をより便利に、と考えがちなのではないかと思います。若い世代ほど、今後必ずおこるとされている南海トラフ地を危惧していて、防災・災害教育の浸透のためか意識が高いです。津波などの災害によるリスクが低い地域に住まう子ども達を、敢えてリスクが高い地域に通わせることがないよう、バランスが取れた学校再編に、またこれから小松島に住んで</p>	<p>防災については、防災教育の実施により過去の震災を風化させないこと、今後の災害リスクにも、学校施設の安全性の確保やその周辺施設の避難場所としての活用等により対応していくべきものと考えています。</p>	防災

		生活してくれる若い世代が納得して受け取れる学校再編にしてほしい。そうすれば再編された学校地域に若い家族世帯が入ってくると思います。過去の震災は風化させてはいけないと思います。		
	39	千代校区は地域によっては、児安の方が近いところもあります。また芝田地区は中学校でも南中学に通学する子供もいると聞きました。その場合は南中学校区の小学校にはじめから通学させたい場合もあると思います。このため、千代、芝田など、隣接する校区に再編予定外の小学校がある場合、校区レベルで特例地域として欲しい。 市内全域で再編後の小学校選択制を設けてはどうでしょうか。通勤や通っていた保育所事情などで地域外の小学校に入学させたい家庭もあると思います。	校区については、学校規模が定まらず教員配置や教材等の確保に困難が生じるため、実施計画(案)では、現在の校区単位の再編としています。ただし、通学などの実情を踏まえながら、今後、必要に応じて見直しを検討する必要もあると考えています。	校区
	40	既存校を使つての再編の場合、再編過程途中の受け入れ側の小学生のメンタルが心配です。上級生が下級生の面倒を見ていますが、南小学校では再編前の小学校の低学年の児童が上級生になるころには、再編後の低学年が入学してきて、面倒をみる低学年が2倍になりそうです。大人数が得意でない子供も居れば、一人の子をお世話するだけでも精一杯の子も居ると思います。 また、統合される小学校では最後の卒業生が発生します。複雑な思いがあると思います。	児童の実態を踏まえながら、子どもたちが生き生きと学ぶことができるような活動の内容や方法を考えていきたいと思っています。	学校生活
13	41	他県では統廃合の前1~2年で交流を深めたり、地域活動においても事前の配慮がされています。統合後の子供のスクールカウンセラーによるメンタルケアもされています。小松島でもスクールカウンセラーは常駐していますが、こちらから相談しないとなにもしてくれない印象があるので、統合前後には子ども達に積極的に関わって再編がストレスにならないよう、ストレスになってもうまく解消できるような方法、関わりを今から模索、検討、計画しておいてほしい。	児童の心理面への支援については、再編前に、児童同士が顔見知りになれるような交流の機会を設けたり、再編により不安を感じる子どもには、スクールカウンセラーの力も借りながらその状況に対応できるような支援を行ってまいりたいと考えています。	学校生活
	42	今でさえ、校区が広域な南小学校では、朝の登校時の渋滞はひどいです。雨が降る日などは南小松島駅前の子供を下ろしている方が多数いて、駅前ロータリーまで混雑しています。 再編後の南小学校は現行の人数より約200人ほど増えるようですが、今の南小松島小学校の校区外から通う児童のうち、通学支援をしてもらえない児童(特に低学年)内やスクールバスに間に合わなかったり乗り遅れた児童の保護者は車で送ると思います。単純に再編後の送迎数は今の送迎数の2倍以上は増えるのではないのでしょうか。	通学時の交通渋滞については、再編後の学校敷地内にスクールバスの乗り入れができるスペースを設けている他市の事例なども参考にしながら、通学時や学校行事などの際に交通渋滞が少しでも緩和できるよう検討をしていまいます。	通学・通学路等
	43	児童数の増加に伴い学童を必要とする児童が比例して増加すると思います。学童は学校敷地内にあるのが理想と言われていますが、現在の南小松島小学校の敷地で、学童、送迎車両、運動会の時でも混雑しない施設や施設の利用方法仕組み作りを必ず行ってください。	再編後の施設については、学校再編準備委員会やその専門部会、学童運営者等とともに、よりよい利用の仕方について検討を進めてまいりたいと考えています。	施設整備
14	44	○再編時に於ける交通の利便性を挙げ、説明会等で述べられたいのですが、逆にその場にて多くの方々が挙げたい渋滞状況等の交通量調査を通学時及び下校時間に行わず単に道幅が広いからとして良いのかいささか疑問に感じます。	交通渋滞については、再編後の学校敷地内にスクールバスの乗り入れができるスペースを設けている他市の事例なども参考にしながら、通学時の交通渋滞が少しでも緩和できるよう検討をしていまいます。	通学・通学路等
	45	○また当初から、学校再編の際、防災機能を持たせることは決定事項であったはずであるにもかかわらず、何故に改めて市民アンケートに於いて問うのか?	市民アンケートで防災機能のことをお尋ねしたことについては、学校施設に求められる多様な機能の中で、「防災機能」とそれ以外の機能との比較できる状況で、市民の皆さまがどれほどの優先度を感じられているかを知る	アンケート

			意味も込めて行いました。	
	46	1 学年 2 クラスとの考えから、一部の学校へ集約し 1 学年 4 クラスにかじを切った、変更したにも拘らず、1 中学校の下に 2 つの小学校との考えや、学区制の変更等の考え方を維持するのはなぜなのか？	教育効果や通学の負担、費用などを総合的に検討した結果この 4 校案の作成に至っています。	学校規模
	47	更に、防災機能をとの考え方であるならば、何故に一部の地区にのみ防災機能が偏り、それ以外の地区の昨日を弱体化させる考えに至るのか？小学校の再編は単に小学校の再編で終わるものではなく、地区の再編であり、防災拠点の再編をも考慮したうえで行うべき問題であり、すべての市民が平等に防災機能を利用することが可能な箇所に設置されるべきであると考えます。	防災機能については、再編後に廃校になった場合でも直ちに学校施設の取り壊し等は現状は想定していませんが、具体的な施設の利活用については、市長部局とともに庁内検討組織で検討を進めていきたいと考えています。	防災
	48	○ そして、根本的な問題として、アンケートを送付した枚数については示されているが、地区別に於ける年齢層別の送付枚数アンケート調査を送付した際の送付及び添付書類等が結果報告書に添付されていないことにある。	校区別の人口割をベースに均等に抽出しております。3,000 人の対象者につきましては、市の広報誌に折り込んだ資料に住所地による校区を確認できる内容を追加したものを一緒にお送りさせていただいております。	アンケート
	49	細かく言えば、送付した 10 代に子供の有無を問うている設問があるが、この設問を行うことによって何を問いたいのか？それならば、いっそ 10 代の学生等を除いた残数で示すほうが良いのではないのかなど愚問とも言うべきものが多く、恣意性さえ感じるアンケートであったように感じる。	対象者全員に共通の設問内容で送らせていただいております。	アンケート
15	50	小学校の再編に賛成です。これからの子どもたちにとって、どのような教育がどのような形でなされるのかということが、重要であると思います。私の周りの若い夫婦は、どんどん小松島市から出て行きます。それはなぜと聞くと、「教育環境の充実が充分ではないと感じるから。」といった答えが返ってきます。現在 11 校ある小学校が 4 校となった場合、現在よりも教育環境が充実したものとなる可能性があるのではないのでしょうか。	市内で小・中学校で共通の 9 年間を見通した教育課程を編成することで、小学校間、小中学校間でより良い教育を行うことができ、学力の向上にもつながると考えています。現行の 11 小学校を 4 校に再編することにより、教員が合同の研修の機会を持ちやすくなるなど連携をより密にとることができます。 小学校の規模が 1 学年 1 学級であっても複数学級であっても、小・中学校が合同で行事を行うなどして多様な価値観に触れる機会を持つことは十分可能と考えています。	教育内容
	51	また、単学級でなくなった場合、教師は複数人で学年の子どもたちに目を配ることができますし、子どもたちも多様な教育観に触れることができ、お互いに多面的な角度から見ることで、一学年一学級では得られない経験ができるのではないかと思います。幼稚園や保育所からいきなり大きな環境になり、不安を感じる場合もあるかもしれませんが 1、2 年の間は同じ先生方が担当するなどして、2 年ごとの担当・担任制にする事も意味があるのではないかと思います。	児童の心理面への支援については、再編前に、児童同士が顔見知りになれるような交流の機会を設けたり、再編によるストレスを感じる子どもには、スクールカウンセラーの力を借りながら不安に対応できるような支援を行ってまいりたいと考えています。	学校生活
	52	また、小学校数が少なくなることにより小学校と中学校の連携が取りやすくなり、中学校での指導が大変スムーズに行えるのではないかと期待しています。大切なことは今、一部分の視点ではなく、これからの「小松島市」としての視点をもって教育を見ていくことではないかと思います。	再編により学校間の連携が密になることで、小・中学校で情報を共有することができ、一貫した指導を通じて中学校への円滑な指導につなげていくことができると考えています。	教育内容
16	53	南小松島小学校周辺は公的機関や会社も多く、特に朝夕は車の通行が多いです。通勤で近辺を毎日通りますが、8 時前など、多くの職場で仕事が始まる時間の頃は車の交通マナーも悪く、見ているだけでひやっとする光景があります。再編後の南小学校は現状の児童数よりも増え、現南小学校の校区外から通学してくる子ども達が約半分になると思います。そうなる、送迎する車が今以上に増えることが考えられ、いつ事故が起こってもおかしくない状態になるのではないかと心配です。あの辺	再編後の学校敷地内にスクールバスの乗り入れができるスペースを設けている他市の事例なども参考にしながら、通学時の交通渋滞が少しでも緩和できるよう検討をまいります。	通学・通学路等



	<p>りは中学校、高校の通学路でもあるので、小中高校生が狭い道路で危ない思いをしないように、歩道・自転車道・自動車道を確立した通学路の整備をしてから再編してほしい。</p>		
54	<p>また、再編後の人数が多いことについて「南小学校は過去にもっと多かった実績がある」とのことでしたが、今は昔のような1家に車が1台の時代ではなく、1人に1台の時代です。昔は1校区内だから徒歩や自転車でも行きやすかったと思いますが、再編後は運動会や参観日などの行事の時は通学支援の有無にかかわらず、ほとんどの保護者が車で来ると思います。そういうのを制御できますか。運動会の時にはマルナカに駐めていたマナー違反の父兄もいたと聞きました。イベント時の送迎や駐車場確保が本当にできるのか疑問です。台風の警報発令時のお迎えも含めて、送迎時の駐車場等の施設/取り組みをしっかり決めて、説明して安心させてください。それから再編計画を実行するのでいいと思います。</p>	<p>運動会などの行事の際には、近隣施設等のご協力をいただいておりますが、今後も近隣施設等のご理解をいただきながら、保護者の方の安心につながるよう取り組んでいきたいと考えています。</p>	通学・通学路等